



自治協議会準備会に関わり、発足してから既に会長職の2期目に入って、これまでを振り返ると「苦しいことばかりではなかった」ことにあらためて気づく。壮大な事業計画に内心では怯みつつもなんとかこなすと達成感があり、その度にネットワークができていった。

「私を踊らせてくれる魅力」



高島地域住民自治協議会
会長 加藤 幸江

小さく危なげなくまとまろうとする第2の人生のはずが、揺れる吊橋さながら右往左往しつつも毎回新しい景色を見せてくれる面白さ。ひとりでもやれることは多寡がしれてるよ、とスリリングな日々が私を励ましてくれる。そんな私を「おだてたら電信柱にも登る」と見抜いて、踊らせてくれる魅力が自治協議会活動にはあるのかもしれない。ということで、任期いっぱい頑張ります。

次号は加藤さんご紹介

高島住民福祉ネットワーク

竹中 寛さん

「区自治会紹介」が一回りし、今号から新しい連載「リングリレートーク」がスタートしました。この新コラムは「自己紹介」と「次の人紹介」を数珠繋ぎでリレートークしていきます。そうして高島地域内の様々な人の特技を発掘し、「サポートリングたかしま」の「人材バンク」を大きく育てる一助にしたいと考えています。ぜひご期待ください。

高島地域 伝言板

新入職員紹介

このたび、自治協議会職員として勤務することとなりました西井康子です。皆様の仲間の「輪」に加えて下さい。至らぬ点もあるかと思いますが、精一杯努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



みんなのコミュニティ まちあかり1月行事予定

《高島住民福祉ネットワーク[社協]主催》

- まちあかり健康づくり 10～11時半 7、14、21、28日 すべて(火)
- カフェまちあかり 10～11時半 9日(木)
- まちあかり食堂 11～13時 18日(土)

[開催場所] 高島郵便局前



サポートリングたかしま ウェブサイト
<https://srt.shiga.jp>

1月の予定表

1月	相談員
1 水	お休み
2 木	お休み
3 金	お休み
4 土	お休み
5 日	お休み
6 月	お休み
7 火	[社協]まちあかり健康づくり
8 水	★ 加藤 幸江
9 木	[社協]カフェまちあかり
10 金	★ 竹中 寛
11 土	
12 日	★ 西川 孝
13 月	お休み
14 火	[社協]まちあかり健康づくり
15 水	★ 山田 善嗣
16 木	
17 金	★ 清水 良恵
18 土	[社協]まちあかり食堂
19 日	★ 廣坂 吉憲
20 月	お休み
21 火	[社協]まちあかり健康づくり
22 水	★ 仁賀 定夫
23 木	
24 金	★ 藪内 キヨ子
25 土	
26 日	★ 中田 國博
27 月	お休み
28 火	[社協]まちあかり健康づくり
29 水	★ 横田 久夫
30 木	
31 金	★ 川島 清治

お越しの際はお電話ください



【開館】火～日(月・祝休館)

- 【火～土 9～13時】パソコン入力などのお手伝い
- ★【水・金・日 10～12時】相談日

サポートリングたかしま
高島地域住民自治協議会

☎090-2115-9055

[9-13時 月・祝休館]

✉ takashima.juminzichikyuu@gmail.com

高島公民館2F 図書室となり
(高島市勝野670番地)

区・自治会の困りごと、一緒に考えお手伝いします

サポートリング∞たかしま

高島地域住民自治協議会だより〈No.34〉

中面特集

高島市制施行20周年企画 巳年さんたちが語る高島暮らし



謹賀新年

明けましておめでとうございます。6町村が合併して高島市が生まれ、今年1月に満20才になりました。「消滅可能性自治体」とも言われた高島市ですが、我々は今まで

も、これからも高島地域で暮らしていきます。

そこで、高島地域にお住まいの巳年の方々に高島市や高島地域について語り合ってくださいました。ここで生まれ育った方、職場を市外に求めて暮らしておられる方、市外から移住されてきた方などバックグラウンドは様々ですが、世代を超えて高島地域について考えました。内容は中面ページをご覧ください。

高島市民憲章ができました

- 豊かな自然とともに生き
里山の恵みを守ります
- 歴史と文化を深く知り
新たな学びにつなげます
- 世代を超えて絆を深め
よりよい暮らしに活かします
- 互いの個性を認めあい
誰もが住みよいまちをつくります
- 地域の産業を大切に
さらなる挑戦をめざします

令和6年10月20日制定
(前書き省略)

高島地域で活動する団体紹介

高島市災害ボランティア活動連絡協議会

私ども高島市災害ボランティア活動連絡協議会は、災害時には災害ボランティアセンターの運営に協力し、平時には防災・減災活動に取り組むボランティアグループで、本年度は会員数38名(団体・個人)で活動しています。

現在力を入れているのは、避難行動計画(マイタイムライン)作りなどの防災出前講座や防災講座の開催、地区防災計画策定の応援などです。

《防災出前講座》

区・自治会からの要請で実施する防災出前講座ですが、本年度も40回を超える実績を残しています。

《防災・減災講座》

災害時の取り組み内容などを学んでいただき、災害発生時に役立てていただこうと今年は3回の講座を開催し、多くの方々に参加いただきました。

第1回 10月14日・第2回 11月9日・第3回 12月7日

《防災カフェ》

防災・減災活動には女性の意見が反映されることが大切と言われています。防災カフェはその時々々の防災テーマでお茶をいただきながら進めます。女性であればどなたでも参加できます。



ご参加お待ちしております!

お話ししてくれた巳年さん



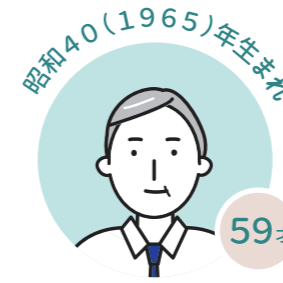
中学時代に天津市より高島地域に転入。高校・大学は市外へ通学。春から天津市で就職するも高島より通勤。



安曇川町から高島地域に引越し、市内にて勤務中。現在仕事と4人の子育てに奮闘中。



天津市出身。勤務先が高島市で結婚を機に高島地域へ移住。豊かな自然の中で子育てを楽しんでいる。



高島地域生まれ。大学も家から通学し、天津市内で希望の仕事を見つけた。高島から通勤中。



安曇川町出身。高校卒業時に天津市に転居・就職・結婚。その後、高島地域に戻り13年間京都まで通勤していた。



京都出身。京都市で勤務中の50才の時に高島地域に土地を購入、退職後に家を建て生活を楽しんでいる。

タブレット端末を持って現れた仲良し3人組

今回の座談会に、平成25年(2013)生まれの仲良し少年3人がキーボード付きのタブレット端末をもって現れたのを見て、年配の巳年さん達は「我々の頃、持っていたのは算盤だった」と感心した様子。暮らしも学校教育もどんどん進化しています。

学校といえば、高島地域で1年間に生まれる子供は年平均25人だそうで、高島学園では1学年1クラスとなっています。保育園から小中学校時代を通じてみんな同一クラスなので、他地域に比べて男女とも非常に仲が良く、大きくなっても団結しているそうです。高校に入って、初めて競争に巻き込まれる高島っ子ですが、小学時代から先端技術製品のタブレットを使って学習に励んでいるのは頼もしい限りです。

高島に住んでいてもやりたい仕事はできる!

「高島市には自分のやりたい仕事がない」という話を聞くことが多いですが、湖西線を使っただけの通勤も非常に楽。なので、高島地域に住んでいても、通勤圏内の天津や京都で職を得て、やりたい仕事に巡り逢えたと複数の方から発言がありました。そして、日々帰ってくる高島地域には、山・里・湖が近くにあって、近江高島の駅に電車が着くとほっとするという声も。

湖西線の風対策をしっかりやってもらえれば、安心して通学・通勤できるので、高島市内に住んで市外に職を求めるのは良い方法だとの発言がありました。

多くの人達に高島地域の魅力を知って欲しい!

若い女性が少なくなると人口減少が加速して行く。ぜひ、多くの人たちに高島地域の魅力を知って欲しい。天津の高校に進学し、大学も湖西線で通学し、天津市内で就職したが、今も住みやすい高島地域から通勤しているという現役世代も複数おられました。

高島市制施行20周年企画

巳年さんたちが語る 高島暮らし

高島市制施行20周年を記念して
年男・年女である高島地域在住の
巳年さん9名に声をかけ
お話ししてもらいました

市制20周年を迎え 市民憲章が制定されました

高島市制施行20周年を迎え、高島市民憲章が制定されたが、市民全員がその内容をしっかり理解して暮らしていきたいと思うとの発言も。天津市では、バスの中で市民憲章が流れていて身近に感じられるが、高島市でも防災無線放送で流すとか工夫をしてはどうか、という提案もありました。

移住者を優しく受け入れてくれる高島地域

高島地域に家を建てて移住してきた頃、プライベートなことにも興味を持たれ驚いたけれど、地域の雰囲気慣れてくると温かく受け入れてもらえ、ぐっと暮らしやすくなったという移住組の方々の声。移住者にも優しい高島地域です。Uターン組の巳年さんは「子供の頃から地元で愛着があって高島にもどってきたが、今の子供達もいつまでも高島地域が大好きだとの思いを持ってくれると嬉しい」とのこと。

なんにもない高島市?

高島市にはカラオケや映画館などはないけれど、そんな時は天津か京都に出れば良いし、敦賀も近くて結構遊べるとの声も。それよりも、高島の町が汚染されたりしないで、いつまでもキレイであって欲しい、人間関係も含めて。

また、高島市の図書館は素晴らしく、さらに充実化されるのを期待していたが、公共施設の再編成で将来的には天津と安曇川に集約されると聞いた。それなら、無人で走っていることが多いコミュニティバスのダイヤを工夫し、高齢者にとって使いやすくなるとありがたい。免許を返納すれば、買い物で安曇川へ行くのも苦労するし、と。

座談会を終えて

将来のことを考えるのは難しかったが、いろんな世代の人達と話し合えたことは楽しかったし、各々の世代が頑張っていることも理解できた。改めて、高島市や高島地域のこと、高島で暮らすことの意味などについて考えてみたいと思ったという感想もいただきました。(今回は座談会形式で実施しましたが、誌面の文字数の関係で内容を要約した形で紹介しました。)

